

ニッポン

ドクター和の



臨終図巻

昭和のお化けテレビ番組『欽ちゃんのどこまでやるの!』で、萩本欽一さんの妻役を長年務めた女優の真屋順子さん。ほのぼのとした夫婦像が国民的人気を呼びました。番組が始まる

とき、かつてのドラマの役柄から悪女のイメージが強かった真屋さんに「日本一のお母さんにしてあげるから」と欽ちゃんに約束をしたといいいます。

その真屋さんが昨年12月28日に旅立たれました。75歳でした。17年にも及ぶ闘病生活だったようです。

58歳のとき、脳出血で倒れたことが始まりでした。左半身に麻痺が残りました。女優さんですから、大病の後

37 真屋順子



長尾和宏（ながお・かずひろ）医学博士。東京大学第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で「人々を診る」総合診療を目指す近著「葉のやめどき」出版。関西国際大学客員教授。

あつたからでしょう。献身的な介護とリハビリの甲斐あり、2003年には高津さんが演出する『出雲の阿国』に車いすで出演。05年の同舞台では、つえもなく立ち上がってみせ、拍手喝采がやまなかったそうです。

を献身的にしていた夫の方が先に旅立ってしまったケースを時々経験します。女性の老いが長く緩やかな下り坂だとしたら、男性は比較的急勾配。男は哀れやな…と思いつつも、理想的な夫婦の形と感ずることもありま

は世間に姿を見せるのを嫌がる方が大半だと思います。しかし真屋さんは隠れなかった。リハビリの様子をテレビで見せるなど、すべてをさらけ出しました。

この勇氣ある行動は、夫で舞台俳優の高津住男さんの愛情が

平均寿命が短いのですから、自然の摂理なのかもしれません。夫を失った10年、真屋さんは心不全に襲われ、翌年には大動脈瘤で手術を受けて、徐々に体力が低下していきました。

「欽ごファミリー」が何度もお見舞いに来ていたようです。かつての「妻」の訃報を受けて欽ちゃんは、近々お別れの会をやるともおっしゃっているようです。

闘病17年とはかわいそうと考える人もいるでしょう。しかし2人のすごい「夫」に愛され続け、復帰という希望を失わずにいた真屋さんの人生は幸福だったのではないのでしょうか。

2人の「夫」が支えた役者魂